

■■ 学長挨拶 ■■

神戸大学 学長 鈴木 正裕

本日は、KHAN - 神戸大学情報ネットワークシステム - の披露式典に、ご多用のところ、また、ご遠方からもご出席を賜りまして誠にありがとうございます。神戸大学を代表して心から御礼を申し上げます。

私などから申し上げるまでもなく、当初は計算器具の一種として考えられていたコンピューターが、その後は情報を収集し提供するシステムとなり、また、通信技術の発展に伴いまして、コミュニケーションの一つの方法としても極めて重要な役割を果たすようになってまいりました。神戸大学も、各所にパソコンあるいはワークステーションを設けておりますが、残念なことに、それらを効率的に運用・管理するネットワークの方が未完成のままで、そういう意味では、いわば髀肉の嘆をかこってまいりました。

神戸大学には、現在 10 学部がございます。その内、附属病院の関係で街なかにある医学部を除いて、残り 9 学部は全部、この六甲台という六甲山の中腹の高台に集まっております。この瀧川記念学術交流会館、略して瀧川会館が、その一番低いところにあります。周りに文学部、理学部、農学部、やや東に片寄ったところに工学部があり、さらに東の端には、教養部解消後の国際文化学部がございます。中程まで登りますと法律、経済、経営の 3 学部、それに経済経営研究所がございます。一番高いところに教育学部改組後の発達科学部がございます。瀧川会館から発達科学部までは、標高差が 100 何十メートルかございます。そういう地形の関係もありましたが、たとえば、法律や経済、経営のあるキャンパスと発達科学部のキャンパスとは、道路を一つ隔てただけであるにもかかわらず、光ファイバーによるネットワークがつながっておりませんでした。それどころか、目と鼻の先の理学部と農学部との間にもネットワークがございませんでした。全くずたずたの状態でごございました。

そこで、毎度文部省にお願い申し上げて学内 LAN の完成を期してまいりましたが、平成 5 年度に至りまして、景気回復のために数次にわたる補正予算が付けられました。その余慶を蒙りまして、他の大学とともに、私どもの方も学内 LAN が完成いたしました。この機会に文部省の方々に厚く御礼を申し上げておきます。しかも、学内 LAN・KHAN には、ATM（非同期転送モードという和名）と申します新しい施設が利用されており、従来に比べて随分高速化したとうかがっております。学内 LAN の完成に伴い、情報コンセント教室も整備され、教育的にも大きな効果があがるのではないかと期待しております。

以上のように、学内 LAN が完成し、大学の教育研究確保のための重要な基盤ができましたが、今後これを有効に利用し活用していくためには、まだまだしなければならないことがあるようにございます。先日も、本学の情報ネットワークシステム委員長の高森先生から神戸大学ネットワークシステムつまり KHAN の運用に関する諸問題の報告書を提出していただきました。これは、発達科学部の蛸名助教授をリーダーとするワーキンググループによって精力的につくられたものでございます。それを拝見しても管理体制の問題とか、ネットワークによるサービスあるいは情報の提供に関する問題など、色々な問題点が指摘されております。私どもはこれらの諸問題の解決に向けて、今後とも力を尽くしていきたいと思っております。

このような問題を抱えたものでございますが、学内 LAN は一応整備され、それによって今まで学内各所に散在しておりました知識・情報が交換され集約され、教育のためにも研究のためにも活用されるようになってまいりました。元々はアメリカの大学間に発生し、今日では全世界的になっているインターネットにも結合しており、それを通じて全世界に情報を提供することができるようになっております。しかし、このように学内外に情報を提供するためには、情報が陳腐なものであってはならないことはいうまでもございませぬ。常に新しいものとして研ぎすまさなければなりません。そのためには、研究の深化に対して強い緊張感を保ち、また人材育成の観点からも教育に大いに力を注がなければなりません。このことを神戸大学の学内の人々にお願いを申しあげるとともに、学外の方々に、この神戸大学の人々の努力に従来にも増してご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

重ねて KHAN の披露式典へのご出席にお礼を申し上げながら、私の挨拶を終わらせていただきます。ありがとうございました。